

資料②

令和3年8月25日

日本薬剤師会

後発医薬品の供給状況に関するアンケート結果について【速報】

- 令和3年1月と7月それぞれの単月使用率を比較したところ、約50%以上の薬局で減少している。
- 使用率が最も減少した薬局では、約10%の下げ幅となっている。
- 入手困難な医薬品のうち、その要因の約7割は「出荷調整」となっている。

1. 調査目的

一部の後発医薬品メーカーの不祥事に伴う業務停止などの影響により、後発医薬品の供給不足が発生していることを踏まえ、現場の薬局における後発医薬品の使用状況への影響などを把握するために実施したもの。

2. 調査の主なポイント

- ・ 令和3年1月から令和3年7月を対象にした後発医薬品の使用率の状況。
- ・ 後発医薬品使用率の変化に伴う影響。
- ・ 入手困難になっている医薬品やその背景と各薬局における主な代替策。

3. 調査期間

令和3年7月27日（火）～8月2日（月）

※メールにて回答を受領して集計。

4. 回答薬局

日本薬剤師会・医療保険委員会委員を介して協力が得られた166薬局

5. 調査結果（速報）

○令和3年1月と7月の単月使用率を比較すると、回答数166薬局のうち、使用率が減少したのは84薬局(回答薬局の50.6%)。

→使用率が減少した84薬局の影響

- ・減少率の分布を見ると、使用率が減少した84薬局のうち、5%以上減少したのは8.3%、3~5%減少したのは10.7%、1~3%減少したのは52.3%、1%未満は28.5%だった。なかでも最大で10%以上も減少している薬局があった。

【表1】使用率が減少した84薬局の減少幅の状況

使用率の減少幅	割合
5%以上の減少	8.3% (7/84 薬局)
3~5%の減少	10.7% (9/84 薬局)
1~3%の減少	52.3% (44/84 薬局)
1%未満	28.5% (24/84 薬局)

○医薬品が入手困難になっている背景等

- ・入手困難になっている医薬品は、3,173品目で、困難な要因として、「出荷調整がかかっている」のは2,207品目、「注文を断られた」のは714品目となっており、全体の7割が出荷調整で入手困難になっている（その他、未回答が252品目）。

→入手困難な場合の代替策

- ・入手困難になっている医薬品、3,173品目のうち、「現在、在庫で対応している」のは1,693品目と全体の半数以上を占める。また、「他メーカーの後発医薬品に切り替えて対応している」のは582品目、「先発品に切り替えて対応している」のは470品目、「同効薬に変更して調剤している」のは162品目、「患者さんの希望でやむを得ず他の薬局を紹介している」が15品目、その他（未回答含む）が251品目となっている。

→入手困難になっている主な医薬品

- ・入手困難になっている主な医薬品は、エルデカルシトールが「183」と回答数が最も多く、次いで、ピソフロロールが「134」、アルファカルシドールが「129」と続いている。

【表2】入手困難になっている主な医薬品

医薬品名	回答数
エルデカルシトール（骨粗鬆症薬）	183
ビソフロロール（高血圧症薬）	134
アルファカルシドール（骨粗鬆症薬）	129
オロパタジン（抗アレルギー薬）	123
プラソルカスト（喘息薬）	111
エディロール（骨粗鬆症薬）	91
ランソプラゾール（消化性潰瘍薬）	89
トリアゾラム（睡眠薬）	78

注）複数規格を有する品目または複数メーカーが存在するものについては、合算している。